

## S7-4

### 遷延性意識障害患者の脳波と高温浴による関係

木沢記念病院 中部療護センター

○渡辺 幸代、中村 美津、石山 光枝、奥村 歩、篠田 淳

はじめに 今回、脳血流の上昇に効果的であるといわれる43℃の湯に3分間、遷延性意識障害患者に入浴を行った。遷延性意識障害の患者に特徴である $\theta$ 波と、知覚刺激、精神活動に反応し減衰するといわれている $\alpha$ 波の変化を健常者と比較した為ここに報告する。研究方法遷延性意識障害患者1名と健常者1名が設定温度43℃の浴槽に3分間の入浴を行い、1分毎の鼓膜体温計による体温測定と脈拍測定、入浴中3分間の脳波の測定を行う。入浴3分間の体温の変化と入浴直後と3分後の脳波の変化を比較する。結果・考察 鼓膜温は脳温に近い測定結果が安定して得られることが報告されている。今回鼓膜体温計にて体温を測定した結果、健常者同様、患者の体温は1分毎に上昇を認めた。体温の変動から脳血流に温熱刺激が影響を与えていることが考えられる。脳波の結果、健常者、患者共に入浴直後から3分後に $\alpha$ 波の減少を認めたことから高温熱に反応していることが考えられる。